

「大丈夫ですか？日本人の学力」

田中 史郎

今年も年度末をむかえた。

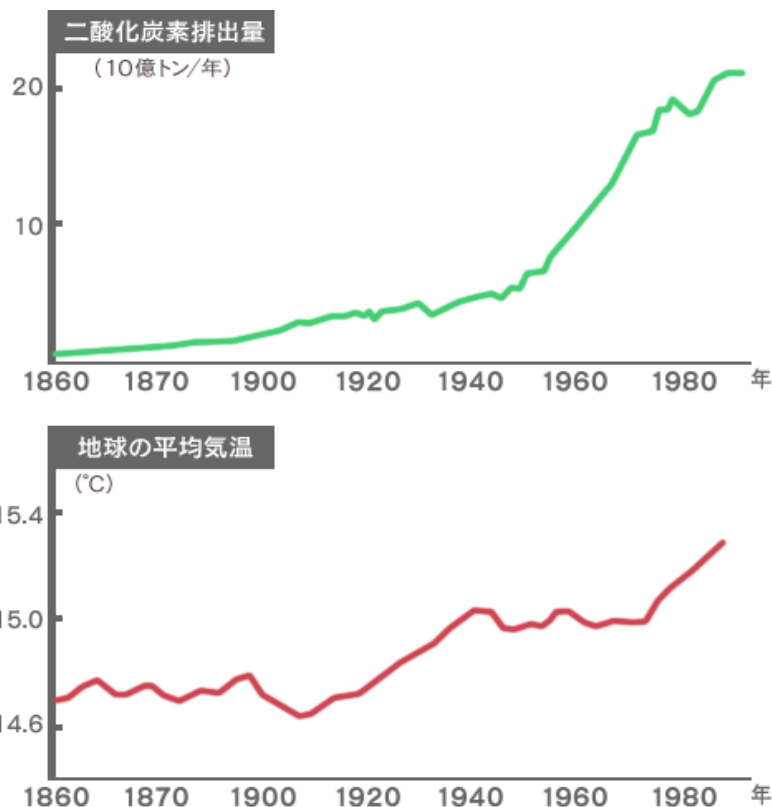
NHK 総合テレビ「日本の、これから <大丈夫ですか？日本人の学力>」(2008年3月8日、午後7時30分から10時30分)を見ながらこれを書いている。日本の生徒・学生の学力低下が叫ばれるようになってすでに相当な年月が経過しているように感じられるが、このたび文科省がいわゆる「ゆとり教育」の方針を転換したことなどの背景があつてこうした番組が作られたのだろう。

また、最近では、OECDの「生徒の学習到達度調査 (Programme for International Student Assessment, PISA)」のデータが話題になっている。これは、15歳を対象としたもので、読解力、数学的リテラシー、科学的リテラシー、問題解決を調査するものという。

たとえば、問題には次のようなものがあった。

[温室効果に関する問題]

次の課題文を読んで、以下の問に答えてください。[中略]



太郎さんが、地球の平均気温と二酸化炭素排出量との間にどのような関係があるのか興味を持ち、図書館で次のような二つのグラフを見つけました。太郎さんは、この二つのグラフから、地球の平均気温が上昇したのは二酸化炭素排出量が増加したためであるという結論を出しました。

【問 1】太郎さんの結論は、グラフのどのようなことを根拠にしていますか。

【問 2】花子さんという別の生徒は、太郎さんの結論に反対しています。花さんは、二つのグラフを比べて、グラフの一部に太郎さんの結論に反する部分があると言っています。グラフの中で太郎さんの結論に反する部分を一つ示し、それについて説明してください。

【問 3】太郎さんは、地球の平均気温が上昇したのは二酸化炭素排出量が増加したためであるという結論を主張しています。しかし花さんは、太郎さんの言うような結論を出すのはまだ早すぎると考えています。花さんは、「この結論を受け入れる前に、温室効果に影響を及ぼす可能性のあるほかの要因が一定であることを確かめなければならない」と言っています。花さんが言おうとした要因を一つあげてください。

上の【問 3】の問題にたいして正確に答えられるだろうか。学生諸君には、是非とも考えてほしい。

おそらく、出題者は、太郎の「主張」は二酸化炭素と熱との関係を前提としたものであるが、それが必ずしも実証されたものではないということを求めているのだろう。たとえば、空気の大部分を占める窒素の含有量の変化や、微量かも知れないが他の物質の変化も考えられる。また、そもそも地球に降り注ぐ太陽のエネルギーが一定であるかどうかも大きな問題である。この二つのグラフから因果を見つけることは可能ではないことを指摘することが要求されている。

また、こうした統計的な方法に対しても疑問を提示することができるかも知れない。かりに二酸化炭素と熱との関係を調べるのなら、実験室で（つまり、他の影響が極めて少ない状態で）様々な濃度の二酸化炭素と熱との関係をまず測定すべきという点を指摘することもできる。

いずれにしても、こうしたことを説明する能力が学力として問われているというわけだ。

教育問題に関しては、「誰もが評論家」になるといわれるほど、いろいろな人がいろいろなことを言っており、今日の NHK の番組もその例に漏れなかった。しかし、多様な意見や見解があるといわれつつも、これまで聞いたこともない考えが示されたというわけでもない。

と言うのは、人類史ないし文明史のスパンを前提に考えると、学問が急に変わったり、また教育の方法が画期的に変わるというようなことは、そう多くはあり得ないからだ。むしろ小手先だけの「改革」やアリバイ作りのための「改革」こそは、諸悪の根源であるといえよう。